

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400410		
法人名	有限会社 ケアネット		
事業所名	グループホーム みやこ		
所在地	札幌市手稲区前田12条10丁目13-8		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、閑静な住宅街にある2階建て1ユニットの民家に近い大きさのグループホームです。ホームの向かいには、公園があり、平日午前中は、小さいお子さんとお母さんが遊び、午後からは、小学生たちが元気に遊び回っている風景が窓から見る事ができ、入居者様はその様子を微笑ましく眺めています。もちろん入居者様も公園に散歩に毎日出かけ近所の人々と交流を深めています。ホームで飼っている番犬は、町内の人気者で、犬を通して子供達とのふれあいの時間にもなっております。ホームの吹き抜けの大きな窓からは、日中暖かな日差しが入り、2階にいても1階の生活音や食事を作る匂いがし、2階にいてもなんとなく人の存在を感じる事が出来、安心できる環境となっております。また、ホーム職員で考えた理念「明るくあたたかな住み慣れた環境の中で、入居者一人ひとりの想いや希望を叶え、入居者様もご家族もスタッフも笑顔でいられるホーム」を目指し、日々入居者様と関わらせていただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JisyosyoCd=0170400410-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JisyosyoCd=0170400410-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年10月27日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市手稲区の郊外にある住宅街の中に位置する2階建て1ユニットの事業所である。向かいの小公園は利用者にとって、近隣の子ども達や地域の方との触れ合いの場となっており、玄関前で飼育されている中型犬のコタロウが、公園に遊びに来た子ども達と利用者にとって良いパートナーとなっている。管理者及び職員は「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念の下に、利用者一人ひとりが毎日充実した生活が送られるよう、季節行事、外出行事、又、姉妹グループの共同行事である動物園の観覧、カラオケ大会、ホーム対抗運動会等工夫した支援を行っている。町内会とのふれ合いも多く、行事の参加、又老人クラブのカラオケ参加は、利用者の楽しみになっている。月2回の音楽療法・チェロコンサート・手品・紙芝居のボランティア訪問もある。家族には毎月「みやこだより」を送付し、アンケートによる家族の信頼度も高い。毎日の生活の中で、利用者が安全で豊かな暮らしが送られるよう職員が一体となって支援している温かい事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもとで、ご利用様が「ゆつくり、楽しく、一緒に」生活できるように会社の理念を共有するとともに、ホームの理念として利用者様一人ひとりの思いや希望を叶え、笑顔でいられるよう職員間で共有し努めている。	理念は、目につきやすい廊下や事務所に掲示されている。又、当事業所独自の理念「入居者様も、家族も、スタッフも笑顔でいられるホーム」を事務所に掲示し、会議や研修会等に確認、共有して利用者のサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内との関わりの中で、老人クラブ開催のカラオケに月2回参加させていただき、町内祭りにも町内の一員として催し物に参加させていただいている。毎日では散歩していると町内の方から声をかけて頂ける関係となっている。	町内会に加入しており、老人クラブとの交流もある。運営推進会議を兼ねたバーベキュー大会では、利用者の家族や町内の方々が多数参加されている。散歩の際には近隣の方と挨拶を交わし交流をはかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、運営推進会議の中で介護のことを中心に情報発信を行いつつ、町内の方から認知症の方の相談等を受けることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議での活動報告の中で、色々なご意見をいただき、意見交換をさせていただいている。また、交流の機会ということもありバーベキューを行うなど実践している。その他にも町内に新しくできた養護施設の職員さんにも参加させていただき、地域への橋渡し役としても取り組んでいる。	会議は定期的で開催されており、町内会役員、老人クラブ、民生委員、地域包括支援センター、家族、児童養護施設「すずらん」の職員等の参加があり、行事報告、ホームの状況、災害対策等の報告があり、その後質疑応答が交わされ、利用者家族には、会議記録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区の担当の方には、積極的に相談を行ったり、包括支援センターの方とは運営推進会議や区の事業等に参加させていただき関係性を構築できるよう努めている。	行政担当課職員とは、常に情報交換がなされており、包括支援センター等関係機関の助言を得ている。札幌市による研修会「ふれ合いフェスティバル」に参加し、ケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止センサーを使用している方にも、ご家族含め説明を行い、必要性について確認を取りながら検討している。 また、玄関を開放することなど抑制をしないケアに取り組んでいる。	定期的に関内の研修に参加し、職員の認識の共有をはかっている。玄関は日中は施錠せず、音センサーで出入りのチェックをし、夜間のみ施錠している。温かい日には玄関の戸を開けて利用者が公園を眺められる様考慮し、職員はさり気なく安全を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に職員は参加し、ホーム内会議の際にも議題とし検討して、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様には日常生活自立支援事業をご利用いただいている。成年後見人制度についても定期的に外部・内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・解約・契約内容改定時に都度ご説明させて頂いた上で、疑問点等伺いご納得頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場でご意見いただくとともに、ケアプランの説明をする際や、面会時にできるだけご家族のお話を聞く機会をもうけご意見等をいただいている。	玄関には意見箱が設置され、家族の訪問頻度は高い。職員は家族来訪時には会話の中から、希望や要望を聞き取り、運営に反映させている。毎月機関誌「みやこだより」を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションをとり、意見等を吸い上げると同時に、定期会議や年2回の個人面談の際に意見を聞く機会を設けている。	定期的に職員会議、カンファレンスでの意見交換がなされている。又、年2回の自己評価の中でより良いケアができる体制が取られている。本部代表者は、度々来訪し、職員の意見、提案等をくみ取り職員の意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的にホームに顔を出し職員とコミュニケーションを図って、ホーム内の改善点を傾聴し、改善に取り組んでいる。休憩室の環境整備や、家電品、ホーム設備の修繕に素早く対応してくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、ホーム内での研修の他に、外部研修への参加にも協力をし勤務調整など自発的に行動するよう環境を整えている。また、年2回の自己評価の実施を行い、課題や目標を定め日頃から取り組むよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表・管理者は、グループホームの団体や管理者連絡会・地域の寄合などに積極的に参加し交流に努めている。職員間に関しては、社内内での交流会などを利用している。また、外部研修等で交流を図るよう伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人ご家族、利用していた他事業所と面談し、不安なことや要望を伺い、出来るだけ生活していた環境を見せてもらうことで、少しでもその方の事を理解し、安心して頂けるよう関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事や困り事、これからの生活に対する不安や要望を伺い、ご家族の心身の負担が軽減されるような関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時から、アセスメントを行い必要な支援を見極め、その方を取り巻く社会資源を含め必要なサービスの組み立てを行っている。また、実際にサービスを利用して改善点がある場合は速やかに変更等を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の暮らしを共に支える者とし、一緒に過ごす時間を大切にしている意識が根付いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が日頃から何気なく話しかけられる雰囲気づくりをし、気軽に話しかけてもらえるような関係性づくりに努めている。変化があればこまめに報告し一緒に課題を解決する関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や、友人・知人、馴染みのお店等、本人が長年培ってきた馴染みの関係が途切れないように支援させていただいている。	家族、知人の来訪も多く、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。行きつけの理・美容室又、本人の思い出の場所に職員が同行する等、各利用者の意向に応じた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係はもちろん、孤立しそうな人、関係性が余りよくない方とも、職員が間に入り潤滑油の役割をし共同生活を営んでいただいている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人・ご家族の相談等に承らせていただくことにより、環境変化によるダメージの軽減に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。ご家族や馴染みの方からも好みや趣味や興味のあることを把握することで、その方の立場に立った支援を提供する。	本人の会話、行動や家族との情報を得ながら、個々のアセスメントを共有している。利用者がどのように生活したいのかを把握し、希望に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時やその後も生活歴や暮らし方、考え方を出来るだけ会話の中からさりげなく把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や申し送り、ケア会議などを通して今のご本人の体調面も含め状況を見極め、出来るだけ持っている力を発揮できるよう現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で職員間で話し合い意見交換を行っている。また、必ず計画更新時・変更時には、ご本人・ご家族からの意見や要望を聞き取り生かしている。	身体の変化や、本人、家族の要望を聞き、医師、看護師と意見交換の上、3ヶ月ごとにケアプランを見直し、変化が生じた場合は、随時再検討を行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、本人とのやり取りの様子がわかるような記録の記入に努めている。また、毎月特定の方課題を上げ、支援記録とは別に、対応法などの記録をとり、より良い対応法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望が見受けられた時には、職員の働き方の調整をして要望を叶えられるように臨機応変に対応するよう努めている。突発な買い物や外出など		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内活動に積極的に参画し、利用者様が自ら地域に根付けよう支援を行っている。 例)町内カラオケ、夏祭りの演物、カラオケなど		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を伺いながら、適切な医療を受けることができるよう、かかりつけ医と協力関係を支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医は、家族と事業所とで連携して支援している。訪問診療は協力医がほぼ毎日往診、週1回の訪問看護の対応があり、良好な協力体制にある。又かかりつけ薬局には薬についての親身なアドバイスを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携とることにより、日常的な健康チェックを始め、健康相談や担当医との相談への助言など頂きながら、生活を支えていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院機関と出来るだけ密に連携を図り、ご本人の入院時のストレスケアや、退院した後のホームの生活を共に検討していただけるよう協働している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、ご本人・ご家族の終末期の要望を聞き終末期の考え方を共有する。また、実際に終末期に差し掛かろうとした際には、あくまでも事業所内で出来る範囲の事柄を伝えたと、ホームと病院など双方の長所・短所を伝え検討していただくようにしている。	かかりつけ医や看護師とは随時話し合いを持ち、利用者や家族の希望を尊重し、事業所が出来ることを説明し「重度化に関わる指針」を文章にて提示し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度程度研修は実施しているが、実践にはまだ不十分なので今後も継続的に研修等が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、水害や地震等についても会議などで検討をしているが、実行的な計画はまだ不十分	避難訓練は年2回、消防署の協力を得て、火災、水害、夜間設定等の訓練を実施している。運営推進委員会に合わせて訓練が行われ、家族や地域住民の参加もある。備蓄品については、代表者を通して検討中である。	さまざまな自然災害に備える為、施設内で出来る取り組みとして、停電や断水に備えて、飲料水、生活用水、ポータブルストーブ、防災食の準備を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴を尊重すると共に、人生の先輩として入居者の皆様には誇りを持って指導や助言をいただき、私たちスタッフも成長している。	利用者の人格及プライバシーを尊重し呼び名は本人の希望を受け止め、排泄、入浴時の誘導、声かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思確認だけではなく、日常の何気ない会話の中からご本人の希望や意見をくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば外出(買い物、外食、ドライブ、理美容室等)や入浴は要望時に応えるよう支援している。また行事等はアンケートを取り、外出先や食事のメニューを決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容室や入居前からの馴染みの美容室に出かける等、各々に合わせ、個別に対応している。また、外出先に合わせた洋服の助言やお化粧支援等にも力を入れており、希望者には化粧品や洋服の買い物は同行し、お手伝いさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に食事のメニューは決めておらず、買物の際や、冷蔵庫にあるもので利用者様と相談しながら食事を作るようにしている。また、1品を利用者様に作ってもらうよう促して関わっていただいている。	利用者と職員と一緒にメニューを考え、調理の下ごしらえ、後片付け等、共に行なっている。誕生日の外出は個別に職員が同行し、外出行事時の外食も多く、又、事業所の向かいにあるパン屋の美味しいパンが食卓に上るのも、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を食事毎にチェックし、不足がちな場合は代用品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を補助し、訪問歯科がその方の状態に合わせて口腔内チェック・指導を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は、利用者様のタイミングを見計らい排泄の補助・介助を行っている。できるだけオムツに頼ることなく自力排泄できるよう声掛けにも力を入れている。	個々の状態に合わせて排泄パターンを把握し、自立排泄を目標に支援している。職員は「排便コントロール勉強会」に参加し、できるだけ布パンツ使用を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に、乳製品の提供や毎日のラジオ体操・散歩等で、自然排便を促している。どうしても便秘がちの方には、腹部・肛門マッサージで対応しどうしても排泄困難な時のみ薬を先生の指示で使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、3日に1回のタイミングで、入浴を促しているが、どうしても入浴したいなどの要望が有る際は臨機応変に対応している。入浴の休みの日は毎日お風呂は準備している。	入浴支援は、基本として3日に一度、出来るだけ利用者の希望する時間で対応しており、安全に配慮してゆっくり寛げるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して日課等は決めておらず、その時に人が集まればレクを行ったり、台所に立ったりと時間が自由なので、休息や就寝についてもある程度利用者様のタイミングで生活されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報やかかりつけ医に薬効を確認したり、症状の変化があれば医師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味・趣向を把握し、個別・団体での活動を別けて、みなさんがそれぞれ楽しんでいただけるよう企画している。例)ショッピング、外食、誕生会、外出等		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な散歩や、買い物外出の他に、個別の買い物(衣類等)や外食、ドライブなど外出の企画を行い出来るだけ外に出る機会を設けている	天候が良いと、ほぼ毎日散歩を楽しまれており、向かいの公園では近隣の子とも達と触れ合いながら、ベンチでの外気浴も身体機能の維持に役立っている。又、冬期も路面に注意して少しでも外気に触れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の状況に合わせて少額お小遣いを所持し買い物の際には、自分で選んで買い物をしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、職員からお手紙を書かせていただきその月の様子をお伝えしている。また、ご家族とお話したいと言われる利用者様に関しては、ご家族に了承をとり定期的に電話でお話できる環境づくりをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中暖かな時季には玄関を放ち、陽気を取り入れると共にホーム前の公園の様子を眺められるように配慮している。居間にはその月に合わせた飾りや作品を入居者と作成し、掲示する事で季節を感じていただけるよう工夫している。	共同空間であるリビング、玄関等は、採光、風通しもよく、一部が吹き抜けで、二階からは一階の様子を眺めることができる。居間の壁面には、利用者の手作りの作品、季節の飾り付けがされている。各所には椅子が置かれ、ゆっくり寛げるように工夫されている。食卓スペースは明るく家族的な温もりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、レクを楽しんだりする団欒のスペースの他にホームの各所に椅子を置き、思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化によるダメージを少なくするために、入居時にできるだけ使い慣れた家具などを持ってきていただくようお願いしている。また、家具のみではなく写真や、ぬいぐるみ等も持参していただいている。	居室の入り口には手作りの表札が掛けられている。部屋には馴染みの家具、写真、趣味のものを飾られ、居心地よく工夫されている。クローゼットも設置されていて、整理整頓されて清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は2階に集中しており、吹き抜けから生活音が聞こえることで、音での確認や訪問をして、安全確認に配慮している。まずは、自分で出来ることは自分で行ってもらえるよう状況の把握に努め、難しいことには支援を行う姿勢でいる。		